

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

創立以来積みあげてきた実績に誇りを持つとともに、時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、地域や関係機関との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の特性や発達状況に応じた、最も必要で適切な教育実践をめざします。

- 1 個を大切にし、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校  
→Challenge 挑戦(Challenge)する児童生徒を育てる学校をめざします。
- 2 豊かな学校力を備え、保護者・地域から信頼される安全で安心な開かれた学校  
→Change 変化(Change)する願いに応える学校をめざします。
- 3 未来を見つめながら常にイノベーションを図る学校  
→Chance 成果を共有化する機会(Chance)をつくる学校をめざします。

### 2 中期的目標

- 1 知的障がい支援学校としての専門性向上をめざす
  - (1) 本校児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修の充実を図り、専門性の向上をめざす。  
①授業力アップのために外部の助言者の支援を得られる機会(外部人材の登用)を継続的に設ける。→平成 29 年創立 20 周年迄  
②28年度は、更なる ICT 教育・国際理解教育実践を重要目標とし、その実践成果を報告する。
- 2 キャリア教育の充実をめざす
  - (1) 小・中学部においては、整理した「キャリア発達の観点」と「地の利を生かした」実践をめざす。  
①28年度は企業と連携したキャリア体験学習の深化を図る。
  - (2) 高等部(特に職業自立コース)においては、画一的な学習時間の見直し実践をめざす。  
①28年度は、小中とは異なる単位学習時間の見直しを図る。
- 3 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の活用・発展をめざす
  - (1) 「個別の教育支援計画」について研修を進める中で、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、日々の教育実践に取り入れることをめざす。  
①通知表連動した諸計画の様式を発展させ、「個別の指導計画」に基づいた授業の PDCA サイクル化を発展させる→平成 29 年創立 20 周年迄。  
②28年度は、吹田市教育委員会・地元の大学と連携しつつ支援ネットワークシステムの拡充をめざす。  
③28年度末までには、ゼネラルコーディネーター(専任)の設置をめざす。
- 4 本校教育の再構築と教育内容の充実をめざす
  - (1) 機動力と発信力のある学校改革とミドルリーダーの人材育成をめざす。  
①運営委員会・PTA とも連携しながら新しい試みを考案する。→28年度は創立 20 周年の企画・立案・実践を図る。→平成 29 年創立 20 周年迄
  - (2) 支援ボランティア等を活用し、学校行事や課外活動等の充実をめざす。  
①ボランティアとも連携しながら新しい試みを考案する。→28年度は清掃活動の充実を図る。→平成 29 年創立 20 周年迄

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施]	学校協議会からの意見
<p>可能なら <a href="http://www.osaka-c.ed.jp/suita-y/jikosindan.html">http://www.osaka-c.ed.jp/suita-y/jikosindan.html</a> もクリックください。</p> <p><b>本年度の特色</b> 分析：施設改善要求は継続、重点を実践することを期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率向上 教職員は 100%堅持 ・リ・グ・ツッ<sup>o</sup> 項目の必要性増大</li> <li>・ICT/国際理解教育 向上と更なる促進 ・引継ぎ・共通理解の必要性</li> </ul> <p>保護者、児童・生徒は連絡帳を通じての提出の呼びかけもあり、昨年度に比べて増。教職員は引き続き回収率が 100%となった。提出率が低いと評価の信頼性が低下してしまうので、次年度以降もこの水準を維持していきたい。</p> <p><b>回答者数の変化</b> 分析：意識改善継続の難しさを実感</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備改善欲求中心</li> <li>・関係機関との連携機会整備</li> </ul> </div> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">}</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流機会の増加期待へ</li> <li>・連携後の内容充実へ</li> </ul> </div> </div> <p>学部ごとに評価の割合が大きく異なるものがあった。所属学部以外の日々の取り組み内容も情報共有していければと考える。</p> <p><b>まとめ</b> 分析：重点指導(キャリア・清掃)の充実・教職員の個性尊重を PDCA サイクルで。</p> <p>自由記述から 生徒・「大人になった時の話」への期待(キャリア教育の必要性) 保護者・交流への期待・ICT 機器の充実要望・施設設備更新への期待(特に衛生面等) 教職員・引継ぎ等の意思疎通の重要性強調・清掃活動の充実・管理強化への不安</p> <p>保護者よりも教職員の方が肯定的評価の割合が低い。清潔に保たれていない箇所をあることを保護者よりも把握できているからではないか。トイレなどは汚れている箇所が多いと感じていることを改善へつなげたい。</p>	<p>可能なら <a href="http://www.osaka-c.ed.jp/suita-y/kyogikai.html">http://www.osaka-c.ed.jp/suita-y/kyogikai.html</a> もクリックください。</p> <p><b>第1回</b> 7/5 7名(学識2、地域中、地域、市役所、PTA、NPO)の委員から 条例に基づく実施要項を確認し ①平成 28 年度学校経営計画(校長)→3 年目を迎え成果を考える段階と説明後助言 ②教科書 →見本本を手に取り、適切な活用をされることを願う意見有 ③本校の教育活動 →就労支援はじめ、専門性向上・ICT 活用に関して助言</p> <p><b>第2回</b> 11/8 6名(1名欠席) 「学校は少しも変わらない」という声もあるからこそ、敢えて意識して「変わっていく」部分を考えていくことが必要ではないかと指摘。 ①研修研究計画について 使い方云々は本来自分で身につけるべきではないか?子どもたちの将来にどう活用するのかという深い研修こそが必要では。 ②進路状況について 不登校気味の生徒にもアツクされ、7 月以降の早期内定も積み重ねておられ、素晴らしいのでは。 ③自己診断について 世の中の状況は変わるので、動きに対応した自己診断結果を活用することが本意であるはずでは。</p> <p><b>第3回</b> 1/24 4名(当日朝3名欠席連絡) 次年度を視野に入れて、①進路(キャリア)状況②研修研究計画③学校自己診断④学校経営計画について、個々に意見や提言をいただいた。 最終的には委員の皆様が集約された次の言葉が印象的。「支援学校教員の仕事の要を3つ考えると、まず子どもたちの可能性を開花させる授業力の向上、次にチーム・ティーチングによる共有化の促進、最後に個に応じた将来を展望できる力の育成ではないか」</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 知的障がい支援学校としての専門性向上	(1) 本校児童・生徒の授業や学校行事等における様々な指導方法及び家庭支援の在り方について、研修の充実を図り専門性の向上をめざす。	(1) 専門性向上 ① 授業力アップのために外部の助言者の支援機会を継続する。 外部人材の登用を積極的に設ける。 →平成 29 年迄 ② ICT・国際理解教育を更に推進する。	(1) 専門性向上 ・授業改善の継続姿勢と、授業の PDCA の徹底をめざし、その様子を HP にて各学期に更新して公開する。 ・他学部の授業を見学する機会を増やす。各部 10 人の見学を確保する。 ・高等部生徒所有の ipadmini を一層活用する。(活用率 H27 年度年約 30 回の 50%増) ・国際理解教育実践の機会を増加させる。(活用率 50%増 H27 年度パナール交流は 1 回)	(1) 専門性向上 ・授業改善をめざす様子を HP に→10 回以上 ○ ・他学部の授業見学の機会→平均 10.8 人へ ○ ・生徒所有の ipadmini の一層活用→ H27 年度年約 30 回の 50%増達成 ○ ・国際理解教育実践機会増加→活用率 50%増 5 回 + α 達成 ◎ H27 年度パナール交流は 1 回 <u>1/19 姉妹校提携(韓国耕進特別支援学校)</u>
2. キャリア教育の充実	(1) 小・中学部においては、整理した「キャリア発達の観点」と「地の利を生かした」実践をめざす。  (2) 高等部(特に職業自立コース)においては、画一的な学習時間の見直し実践をめざす。	(1) キャリア教育 ① 28 年度は企業と連携したキャリア体験学習の深化を図る。  (2) 高等部(職業自立コース) ① 28 年度は小中とは異なる単位学習時間の見直しを図る。	(1) キャリア教育 ・キャリア発達の観点から、「地の利を生かした」実践をする。28 年度は本校近くの特例子会社を中心に 5 社の連携を行う。  (2) 高等部(職業自立コース) ・画一的授業時間を見直した時間割を作成する。 ・職業自立コースにおける開拓した連携企業と、学校との交流取組みを HP に掲載し、毎月更新を予定する。	(1) キャリア教育 ・「地の利を生かした」実践 <u>近くの会社を中心に 5 社(H28)の連携</u> → ◎ 白鹿・ダスキン・ハートフル(パティシエ)・一風堂・FC 大阪  (2) 高等部(職業自立コース) ・画一的授業時間を見直した時間割作成。 △ →職業自立(高)の一部で試行 ・開拓連携企業との取組みを HP に掲載・更新 ○
3. 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の充実・発展	(1) 「個別の教育支援計画」について、「個別の指導計画」との関連性を深めながら、日々の教育実践に取り入れることをめざす。  ・地域支援センター校として、支援教育に関わる情報の発信を充実させる。	(1) 諸計画の活用 ① 通知表と連動した「個別の指導計画」に基づいた授業の PDCA サイクル化を図る。 ② 28 年度は、吹田市教委・地元の大学と連携し、支援ネットワークの拡充をめざす。 ③ 28 年度末迄にはネラルコーディネーター(専任)の設置をめざす。  ・保護者支援を充実させるためにも、各学部での相談支援体制を更に充実させる。	(1) 諸計画の活用 ・作成した指導集を活用する。 ・「個別の教育支援計画」の支援ツール化を進め、1 学期早期から新入生の保護者に働きかけるとともに、卒業後の進路先との連携のツールを活用する。  ・学校説明会等で働きかけ 1 学期早期から地元大学との連携研修会(複数回)を設ける。 ・センター的機能を充実する。 ・ゼネラルコーディネーター指名を行う。	(1) 諸計画の活用 ・作成した指導集活用→活用拡大中 ○ ・「個別の教育支援計画」新入生の保護者から卒業後の進路先との連携のツール活用へ。 △ →活用・引継ぎ率ネットワーク 100%をめざす  ・ <u>地元大学との連携(複数回 8/31・1/18・1/19)</u> ◎ 合理的配慮・基礎的環境整備概念の継続的な教職員研修や(国際)交流支援での連携拡大中 ・センター的機能の充実→ ○ ・ゼネラルコーディネーター指名→年度末指名確実へ ○
4. 本校教育の再構築と教育内容等の充実	(1) 機動力と発信力のある学校改革とミドルゲートの人材育成をめざす。  (2) 支援ボランティア等を活用し、学校行事や課外活動等の充実をめざす。	(1) 学校改革の推進 ① 運営委員会・PTA と連携しながら新しい試みを考案する。 →28 年は創立 20 周年の企画立案を図る。 また、学校と保護者が意見交換する機会を設け、内容をまとめ、保護者・教職員に周知する。  (2) ボランティアの活用 ① ボランティアの更なる活用 ボランティアとも連携しながら新しい試みを考案する。 →28 年度は清掃活動の充実を図る。  ・防災計画を活用し、継続的取組を進める。	(1) 学校改革の推進 ・育成中のミドルゲートの実践の場として、創立 20 周年企画を提案する。 ・PTA で保護者との懇談会(年 3 回)と、カウンセリングや、地域課題を考えるコミュニティ広場を開催(最低 1 回)する。  (2) ボランティアの活用 ・学校行事、課外活動等に支援ボランティアを活用する。のべ 25 名・80 回行う。 ・プロの清掃活動に学ぶ行事を企画する。(学期に 1 回)  ・より実践的な避難訓練を実施する。 ・アプリを各学期活用する。 ・BCP(業務継続計画)に基づく訓練を行う。	(1) 学校改革の推進 ・20 周年企画提案→日時担当者関連決定済 ○ ・PTA で保護者との懇談会(年 3 回)とコミュニティ広場(9/20)台風で中止 △  (2) ボランティアの活用 ・支援ボランティアを活用 ◎ →のべ 28 名・約 80 回→週 8 人継続支援中授業ボランティアとして、プロの教員にも良き刺激 ・プロの清掃に学ぶ行事企画 →企画交渉に手間取り 3/27 実践予定 ・実践的な避難訓練実施 ○ → <u>内閣府ミドル地区事業に参加 11/21-</u> ◎ ・アプリを各学期活用 ○ →1 学期完成 2 学期よりインストール試行中 ○ ・BCP(業務継続計画)に基づく訓練 ○ →1/15 地元との連携の中で実践中 ○